

寒の戻りの意味とは？時期はいつからいつまで？



「寒の戻り」とは、
だんだん暖かくなっていく
春の時期に、一時的に冬の寒さが
ぶり返すことを意味します。

ただし、この場合の春というのは・・・

- ・2月4日頃の「立春」以降
- ・3～4月頃の「晩春」

という2つの解釈があります。

そもそも「寒」という言葉は、二十四節気で
1月5日頃の「小寒」～2月3日頃の「節分」
の約1ヶ月間を意味しています。

旧暦では、この「寒」の時期が、1年で最も寒い期間とされ、
「立春」をピークに寒さが徐々に緩んでいくとされていました。

つまり「立春」＝「寒の明け」とされ、
それ以降一時的に寒さがぶり返すことを「寒の戻り」と呼んでいたようです。

ただ、新暦の2月といえば、冬真っ只中で、雪深い地域も多いですね。

したがって、現在では3～4月頃の晩春に使われることが定着しています。

三寒四温という言葉もあるくらいですから、本当に暖かい季節がやってくるまでは、一進一退という日々が続きます。

三寒四温の意味や時期、使い方！

なぜ寒の戻りが起こる？

なぜ寒さがぶり返すのかという点ですが、主な原因は2つあります。

1つは、西高東低という冬の気圧配置で、春でも低気圧が通過した後に西高東低になることがあります。そのため、北からの風が強まり、朝晩だけでなく、日中も寒さが厳しくなります。

日本付近を低気圧が発達しながら通過することで、上空に強い寒気が流れ込み、冬に戻ったような気候になることがあります。

もう1つは、移動性高気圧による影響です。

この場合、日中は晴れていて暖かいですが、地下熱が上空に逃げる「放射冷却現象」が起こります。

すると、朝晩の冷え込みが厳しくなります。

1日中寒い場合と、朝晩の冷え込みが強い場合の2種類があります。

条件が重なると、この2つが同時に起こることもあるようです。

寒の戻りに反対語や類義語があるの？

詳しく調べた結果、反対語は特にはないようです。

「寒の入り」「寒の明け」「暑の戻り」など、どれも該当しませんね。

気象用語では「暑さが戻る」という表現が使われることがあります。

類義語は、「余寒」「春寒」「花冷え」などがあります。

「余寒」「春寒」は立春以降にまだ寒さが残っていることを意味しますので、厳密にいうと今の寒の戻りとは異なります。

一方、「花冷え」は桜が咲く頃の寒さを表しているため、類義語に相応しいようです。